

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202808		
法人名	株)ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平グループホーム		
所在地	札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	平成25年3月14日	評価結果市町村受理日	平成25年11月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL /index.php?action=kouhvou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202808

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユーモア溢れる職員が多く、笑顔や笑い声がいつも聞こえています。明るい職員ばかりなので話の種が多いのも特徴です

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(株)ツクイは、福祉事業に携わり30年の実績を持ち、全国規模で展開しています。当事業所は、JR百合が原駅から徒歩3分程の利便性に優れた住宅街に位置し、周辺には百合が原公園やモエレ沼公園が点在し、自然環境にも恵まれています。敷地内にはデイサービスが隣接し、それぞれの機能を有効に活用しながら、今年度は夏祭りを合同で執り行い、利用者、職員は交流を図り、協力体制を築いています。「和」と「風」の2ユニット共に、明るく、清潔感があり、夏は畑で野菜の栽培を楽しんでいます。開設から7年が経過し、地域との関わりも町内会行事に利用者が参加したり、事業所主催の夏祭りに住民の参加を頂く等、職員は地域密着型サービスに於ける役割を認識し、地域との関係性を大切にしています。介護サービスの面では、法人本部で毎年家族アンケートを取り、思いや意向を汲み取り、運営に活かしています。職員は、各利用者のアセスメントを共有し、介護度が高い利用者の多い中で、思いや意向の把握が困難な場合にも、職員はチームケアで連携を取り、きめ細かなサービス提供を行い、利用者の暮らしを支えています。協力医と看護師との医療連携も充実しており、ターミナルケア体制が整備され、職員は実際に看取りを経験しており、利用者、家族の望む終末期を支援しています。職員は常に笑顔で利用者へ接し、日々笑いのある生活を目指したケアサービスに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に社訓と共に唱和しています	法人理念に加え、地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を全職員で話し合い作りあげています。理念に添ったケアが実践される様に、職員は日々、コミュニケーションを取りながら、話し合い、意識付けを図っています。理念はパンフレットや玄関に掲示し、啓発に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域行事に参加しております。敬老会には毎年余興で参加し楽しみにして頂いております。	町内会行事のお祭りや敬老会には利用者も参加し、清掃活動には職員が参加しています。隣接のデイサービスと合同の夏祭りには、町内会役員を始めとした地域住民の参加を頂き、賑わいを見せています。相互の行事には参加交流を図っていますが、日常的に気楽に立ち寄って頂ける関係性には至ってません。	単発の行事や季節の催し等の関わりだけに止まらず、演芸や傾聴等のボランティアの受け入れや、幼稚園や学校に協力を呼びかけて、子供達の訪問を受ける等、近隣の人たちへの声かけや行き来のきっかけづくりに努め、日常的な交流が図れる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方より時々相談を受けるが、地域への貢献は現在は難しい		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、町内会長や民生委員の方々に報告し意見や質問を頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に開催し、事業所の運営状況や行事案内、利用者の状況等を報告し、参加メンバーからは質問や意見、要望を受け、双方向的な会議となっていますが、それを反映させる議事録には至ってません。	運営推進会議に家族の参加を促す為にも、休止していた議事録の配布を継続すると共に、関心を持たれる議題の提供を期待します。また、会議での質疑応答に関する記録の充実を図り、整備される事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とはあまり関わりはない。書類の提出等で伺った時にお話をする程度	運営推進会議には、包括支援センターの職員が参加し、情報の共有を図っていますが、行政の窓口担当者とは、書類提出時に挨拶する程度で、具体的な課題についての相談や指導を仰ぐまでの関係には至ってません。	介護保険の保険者である行政には、事業所の実情やケアサービスの取り組み等を伝え、課題内容によっては、行政と協議しながら解決を図る必要がある場合も考えられますので、積極的な関係づくりに期待します。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する研修を行い、拘束ののない自由なケアに取り組んでいます。	法人本部で独自のマニュアルが作成され、月1度の全体会議にて、身体拘束の弊害について、話し合い周知徹底に努めています。利用者の杖に鈴を付ける事が拘束に当たるのではと全員で協議し、取り外した事例もあります。玄関は夜間のみ施錠し、自由な暮らしを提供しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に	虐待の内、外部研修に参加し、伝達研修を行いながら日々の業務の中でもお互い注意しながら虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人が将来必要な方がおられるので制度について学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、説明、相談疑問に対応し、不安の無いよう配慮をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口はあるも、利用する方は殆どなく普通の会話のなかでこちらからお聞きしたり家族の言葉に注意はらっている	法人本部で年1度、家族アンケートを実施し、運営に反映させています。家族の来訪時には、気軽に意見が言える様に雰囲気作りに努めています。遠方の家族にも電話で状況を報告しながら、意見、要望の表出に努めています。2ヵ月毎に発行する「日々邁進」のホーム便りでも、利用者の暮らしぶりを伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は、日頃から話を聞くよう努めている。反映は管理者の一存では難しいのが現状である。	職員の意見や提案については、日常のやり取りの中や申し送り時に聞き取り、運営に反映させています。また改めて、雇用更新時に個人面談を実施し、職員の要望や意向を聞く機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は、資格取得制度がありまた、向上を目指す職員の育成にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社は、現在職員の育成に力をいれている。社員への投与、管理者への育成もあり強化研修開き意識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は現在は殆どありません。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面談を行い本人の思いや要望をお聞きし職員全員で周知取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とも面談し要望、不安をお聞きし安心して入所して頂ける様こちらからも提案し納得していただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性、家族の介護負担などを考慮し、他の施設利用の提案、情報提供をしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを理解することは難しいが、いつもいる人、いつもの顔で関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力的な家族は多いが、遠方であったり疎遠であったり出来るだけ電話などでお話するよう努めているも充分ではない		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟、親戚との関係を築けている方もいるが中には身寄りない方もいらっしゃる職員が支援をし馴染みの関係づくりに努めている	兄弟や姪御さん等の来訪を受けています。遠方の方へ自ら電話を掛けたり、職員が取り次いだりして、懐かしい人と声で交流しています。家族の協力のもとに、誕生日の外食や命日の墓参り等、馴染みの関係の継続に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度違いや性格で良好な関係を保つ事は難しいが重度の方を職員と共に支えていけるよう関わりに心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一部の方は来所はあるが、殆どの方は終了してしますが多い		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを定期的に行い、希望や本人本意に添えるよう努めています。	利用者の生活歴、家族からの情報等を参考に、日々の関わりの中でのコミュニケーションや表情から、思いや意向の把握に努めています。情報は経過記録に記載し、カンファレンスで話し合い、意向の実現に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの経過は、把握できるが、生活歴や馴染みの暮らしをすることは難しいと考えます		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態は日々変化するため、一日一日を注意し視て行く様努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中から課題を話し合い、計画を作成している。	利用者の担当職員は、モニタリングを基に、毎月のカンファレンスにて全職員で話し合い、利用者の状況を確認し、介護支援専門員が纏め作成しています。介護計画は改めて家族に説明しながら、要望を聞き取り検討しています。定期見直しは3～6か月とし、状況の変化時は随時見直されています。	介護計画を活かす為にも、介護計画とレセプト明細記録が連動する書式が望まれます。計画作成担当者を中心に職員全員で、更に検討し、計画・実践・評価の流れに基づいた適切な記録になる様に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添って記録している。課題が見つかれば計画の見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時の受診対応は行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	三味線のボランティアが来てそこに参加し楽しんでおられます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望に応じ、相談にのっていただける関係が築けています。また、入院時など病院の紹介も適切に行っていただいています。	協力医療機関の往診は2週間に1度実施しています。かかりつけ医への受診は家族対応ですが、困難な場合は職員が同行しています。歯科医は要望により往診対応しています。毎週、看護師による健康管理は、個々の身体状況を把握し、適正に図られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師に来ていただき、相談が気軽にできる体制が出来ています。アドバイスもいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医の協力もあり情報交換はできています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医の見解で家族様と今後についての話し合いや家族の意向を聞き、チームケアができるよう職員との話し合いも行っている。	重度化や看取りに関する対応指針は明文化され、入居時に説明を行い、同意を得ています。現在までに、7名の看取りを経験しており、主治医、看護師、介護職員、家族と連携し、支援に取り組んでいます。更に、ターミナル研修を検討し、全職員でのチームケアを図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変には落ちつた対応と医師への連絡も対応で来ている。心肺蘇生などの対応可能な職員は数人であるため研修に参加し受講する必要がある		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っているが、地域の協力は全面的に受けられる体制は薄い為、町内会長に働きかけ協力体制の確立を図りたい	今年度は8月と11月の年2回、昼・夜を想定した避難訓練を実施しています。8月の訓練には、地域の消防団の参加を頂きましたが、地域住民の参加が少なく、課題となっています。水・食料の備蓄と年2回の設備点検は実施しており、マニュアルも作成しています。	自然災害の避難訓練も加えて、地域住民の避難訓練参加協力の呼びかけを継続し、具体的な地域の協力体制について、運営推進会議等でも協議を持ち、より一層の防災対策強化への取り組みに期待します。更に、備蓄品の充実を図る事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの伝達研修を行い職員が周知できるよう心がけている。	利用者の誇りを傷つけない様に対応していますが、利用者と職員の関わりが深くなり、つい馴れ合いの声かけになった時は、職員同士で注意を払い行動しています。名前も希望に添って対応し、記録簿も事務所に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションで本人の思いを聞き出したりしながら自己決定の支援に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、希望に添って支援する努力はしているが、状況によっては職員の都合になってしまう事も見受けられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合わせた服装や、2ヶ月に1回の訪問理美容が来ている。だらしく見られないよう心がけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けはその方の力量に合わせて行っています。楽しく気持ちよく食事が摂れる様、席の配置も状況に合わせて対応しています	利用者の嗜好を考慮しながら、職員がメニューを作成しています。夏には、畑で収穫した野菜も料理に取り入れ、喜ばれています。誕生日や敬老会では、利用者の希望に添って変化を加え、食事をより豊かになる様に工夫しています。職員が交代で検食し、食の安全を確保しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはおこなっています。訪問歯科での口腔ケアを受けている方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化が進み排泄の自立は難しいが、トイレサインを見逃さないよう注意をはらい排泄リズムつかみ汚染が少ないよう努めている	利用者個々の排泄パターンを把握し、さりげない誘導に心がけ、トイレ排泄に向けた自立支援に取り組んでいます。便座に座った際は、必ず膝にバスタオルを掛け、羞恥心や不安を軽減する配慮に努めています。衛生用品の使用も、個々に対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や乳製品などを摂って頂いたり、適度な運動が出来る方は一緒に行い、医師と相談しながら排便コントロールを行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に合わせて気持ちよく入浴して頂ける様心がけている	入浴は週2～3回を目途に支援していますが、希望があれば毎日でも入浴出来る体制が整っています。入浴を拒む利用者には、無理強いせず、声かけのタイミングや職員を変えて対応しています。重度の利用者は、2人介助で支援しています。入浴時の会話や歌声は心と和むひと時になっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠リズムにむらがあり眠らない方もいる。無理に寝てもらうのではなく、話をしたりしながら睡眠を促す支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類が多く副作用の把握は困難、薬の変更があった時は注意深く見る習慣はついている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に買い物に出かけたり、其々の役割は身に付いているようです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクなどを企画し出かける機会を作るよう心がけています。近所への散歩も希望に添って行っています。	日常的には、日々の散歩や畑作業、買い物等、外気に触れ、気分転換を図っています。年間行事も、花見、動物園見学、苺狩り、日帰り入浴、紅葉狩り、イルミネーション見学等のレクレーションを数多く企画し、外出支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理ができる方には買い物出かけたり好きなものを自分で買う楽しみが持てるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時は、自由に電話を使用して頂いております。掛ける事で帰宅願望が出てします事も多々あります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが気持ちよく過ごして頂けるよう、掃除などこまめに行っている。音に対しては過敏になる方が多い。生活音で不快にさせてしまっている事もある	各ユニットの入り口には、「和」「風」の表れが掲げられています。リビングは明るく、畳敷の小上がりが有り、そこでは利用者が洗濯物をたたむ作業を行うのに丁度良い場所となっています。テレビを中心に、食卓テーブルとソファがバランス良く配置され、利用者は大好きな「美空ひばり」の歌番組を楽しんでいます。廊下の壁には写真や絵を飾り、居心地良い場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置などを工夫しているが居心地の良い空間とは思えない。限られたスペースなので難しい部分もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や置物、家族の写真などを持ち込まれ、安心して過ごせる空間になっている	居室にはクローゼットが設置されており、収納が行き届いています。利用者は、筆筒、ペット、テレビ、ソファ等持ち込み、それぞれに個性的な部屋を作り上げています。壁には、絵や写真、カレンダーを飾り、筆筒やテーブルの上には人形やぬいぐるみ等を置き、利用者が安心して過ごせる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からない人には、文字で表示し手すりの設置もしているにで自力で目的の場所へ移動することが出来る。		